

天理市埋蔵文化財センターだより Vol.25



平成29年度冬の文化財展

第Ⅰ部『帰るそなたの丹波市～JR桜井線の120年～』

第Ⅱ部『平成28年度発掘調査速報展』

◎平成29年度冬の文化財展

第Ⅰ部 帰るそなたの丹波市
～JR桜井線の120年～

第Ⅱ部 平成28年度発掘調査速報展

平成30(2018)年2月3日(土)～2月25日(日)

※ 9:00～17:00

※ 月曜日、2月11日(日・祝)～13日(火)は休館
会場：天理市文化センター1階展示ホール

◎文化財講演会と展示解説

日 程 平成30年2月25日(日) 14:00～16:30
会 場 天理市文化センター1階展示ホール

天理市内には、原始・古代から近現代に至る数多くの文化財が所在します。天理市教育委員会文化財課では、平成18年度より年2回の文化財展示をおこない、市内の文化財と市の歴史について理解を深めていただけよう努めています。

平成30(2018)年は、現在のJR桜井線京終・桜井間が私鉄の奈良鉄道によって開通してから120年目にあたります。そこで今回の文化財展は、「帰るそなたの丹波市～JR桜井線の120年～」と「平成28年度発掘調査速報展」の2部構成といたします。

桜井線の市内各駅とその歴史

櫻本(いちのもと)駅

かわらがま

天理市櫻本町瓦釜に位置する、市域北部への玄関口です。明治31(1898)年の開業当初から残る木造駅舎は、全国的にも有数の歴史ある駅舎です。明治34(1901)年度に早くも駅構内の拡張(線路やプラットホームの増設)をおこなった記録があり、駅の下をくぐるガード壁面の煉瓦積にその痕跡がみられます。



上下のホームを結ぶ跨線橋は昭和初期に古レールを再利用して建てられたものと見られ、駅構内には今にも蒸気機関車が走ってきそうな雰囲気が漂っています。



櫻本駅の下をくぐるガードの壁面は煉瓦積で作られており、矢印の位置に切れ目が見られる。写真では切れ目の奥側が開業当初に作られた擁壁で、手前側は後に拡張した部分である。

このような擁壁は大正時代になるとコンクリート造に移行することから、手前の擁壁も明治時代のうちに作られたとみられ、明治34年度の拡張記録と符合する。



明治34年度の拡張以降、櫻本駅はプラットホーム2本と線路3本を持つ駅となつた。現在は、プラットホームに面しない中線が撤去されている。

丹波市(たんぱいち)駅(→天理市駅→天理駅)

かわはらじょう

天理市川原城町に所在する、天理市の代表駅です。明治31(1898)年5月11日に丹波市駅として開業したときは今の市民会館の場所にありましたが、区画整理事業にともない昭和40(1965)年9月1日に現在の天理総合駅に移転しました。

丹波市駅は明治33(1900)年に成立した「地理教育鉄道唱歌」にも「都のあとを教へよと いへど答へぬ賤の男が 帰るそなたの丹波市 布留の社に道ちかし」と歌い込まれました。また、総合駅へ移転後の昭和41(1966)年から昭和59(1984)年にかけて「はまゆう」「しらはま」「紀ノ川」などの急行列車が桜井線経由で運転された際には、天理駅は急行停車駅となりました。現在でも天理駅の構内には急行「紀ノ川」号の乗車位置表記がうっすらと残っています。



丹波市駅の駅舎と構内全景。
奈良・桜井間の中間駅としては最も大きな駅で、天理教大祭時には現在と同様に参拝客で賑わった。

京終・桜井間が開通した年の12月には、天理教大祭に合わせて臨時列車を運転した記録がある。



左は昭和40~50年代とみられる天理駅前広場。このあと平成15年と29年に大改修をうけ、現在は「天理駅前広場CoFuFun」として新たにぎわいの場となっている。

右は現在の天理駅構内に残る急行「紀ノ川」号の乗車位置表示。天理駅がかつて急行停車駅だったことを静かに物語っている。

長柄(ながら)駅

ひょうご

あさわ

天理市兵庫町に所在する、天理市朝和地区への玄関口です。駅の敷地は全て兵庫領にあり、長柄領までは少し距離がありますが、「長柄」という駅名がつけられています。この駅は開業当初には置かれず大正3(1914)年8月20日に新設された駅で、行違い設備はありません。昭和19(1944)年ごろまで一部の普通列車が通過していたほか、昭和5(1930)年ごろまでは奈良駅および高田駅より遠くへの切符を発売していました。平成20(2008)年度に駅前広場が整備され、様子が大きく変わりました。



柳本(やなぎもと)駅

天理市柳本町に所在する天理市南部への玄関口です。明治31(1898)年の開業当初から設けられた駅で、貨物列車用の引き込み線跡などが良好に残っているほか、下りホームがレンガ造であるのに対し上りホームは石造となっている点が特徴的で、上りホームは時代が異なる可能性があります。

開業翌年の春、花見客むけの割引切符がこの駅を目的地の一つとして発売されたとの記録があります。江戸時代末期、第12代柳本藩主織田信成が行燈山古墳の外堤に桜200本を植えさせました(現存せず)が、この桜が当時はまだあり、花見の名所となっていたことがわかります。また、平成10(1998)年に黒塚古墳の現地説明会がおこなわれた際には考古学ファンが全国から詰めかけ、古墳を先頭とする長蛇の列はこの駅まで伸びました。



駅舎は昭和5(1930)年、上りホームの旅客上家は大正3(1914)年の建築。駅舎の方は近年、土蔵を模した海鼠壁(なまこかべ)風の装飾が施されている。

駅の東寄り、駅舎の南方には貨物用の側線跡が残り、かさ上げされないまま原形を留める煉瓦積のホーム擁壁が明治の雰囲気を残している。右は昭和20年代ないし30年代の撮影と思われる写真で、貨物ホームにクレーンが据え付けられているのがわかる。

丹波市駅周辺の旧線跡

昭和40(1965)年の駅移転に伴い、田部町から丹波市町にかけて線路が付け替えられました。北大路交差点の北側では数年前まで旧線跡をたどりましたが、山の辺第一工区土地区画整理事業で跡形もなく湮滅してしまいました。このように、付け替え後の旧線跡は順次市街地化しましたが、現在も点々とその名残を残しています。



田部町・珊瑚珠川(線路跡を道路に転用)



川原城町・シルバーハウス付近

昔のままの鉄橋？

おひとけ

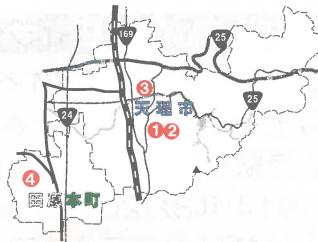
奈良市の帝釈院川の鉄橋は、煉瓦造の橋台に補修痕がなく、橋桁も明治後期のタイプで、開業当初の鉄橋がほぼそのまま残っている可能性があります。



第Ⅱ部 平成28年度発掘調査速報展

天理市教育委員会文化財課は市内遺跡を対象とした発掘調査を実施しています。今回は平成28(2016)年度におこなった3件の発掘調査の成果をご紹介いたします。

- ①ヒ工塚古墳第3次 ②成願寺遺跡第22次 ③布留遺跡群第35次
④宮古北遺跡第21~23次調査



ヒ工塚古墳 第3次

ひえづかこふん



①

期間 平成29年1月16日～平成29年3月8日

ヒ工塚古墳の後円部北側で範囲確認調査をおこない、周濠と葺石・基底石を確認しました。葺石は人頭大以上の基底石の上に拳大～人頭大の石を積んでおり、基底石の位置から後円部直径は現況より約10m大きくなるようです。

周濠から出土した土器の年代から、ヒ工塚古墳は古墳時代前期前半の古墳であると考えられます。



見つかった葺石・基底石

成願寺遺跡 第22次

じょうがんじいせき



②

期間 平成29年3月1日～平成29年3月8日

住宅建設に伴い萱生町で調査をおこないました。現状地割に沿った落ち込みを検出、平安時代～中世の土器が出土しました。



見つかった落ち込み

布留遺跡群 第35次

ふるいせきぐん



③

期間 平成28年6月29日～平成28年7月20日

寮建設に伴い布留町で発掘調査をおこないました。浅い土坑から、古墳時代の小形丸底壺や高壺が集中的に出土しました。



出土した土器群

宮古北遺跡 第21～23次 (田原本町調査)

みやこきたいせき



④

期間 平成28年8月4日～平成29年3月24日

宮古北遺跡は田原本町の北西部にある古墳時代前期を中心とした集落遺跡です。平成28年度は第21～23次調査を実施しました。第21次調査では、弥生時代終末期のくぼ地や古墳時代前期の井戸を検出しました。また第23次調査では、弥生時代後期後半の甕が溝からまとまって出土しました。



溝から出土した土器

出動！ 発掘現場レポート!!

■稻葉遺跡第2次

平成29年度上半期の調査

店舗建設に伴い稻葉町で発掘調査をおこないました。弥生～古墳時代の遺物が多量に出土する自然流路を複数確認しました。



調査地全景(北東から)

天理市指定文化財「木造毘沙門天立像」について

平成28年4月1日付けて天理市田町本郷の毘沙門堂に安置されている「毘沙門天立像」1体が市の文化財指定を受けました。この「毘沙門天立像」は平安時代末から鎌倉時代初頭に造られた像高108.2cm、針葉樹材による寄木造りの仏像で、後世に玉眼を施すなど幾度かの修繕を受けていますが、体部には彩色や截金が残る優れた美術品です。本仏像は、廃寺ですが常蓮寺ゆかりの仏像で、地域の人々に大切に守られてきました。



このセンターだよりは「大和まほろば広域定住自立圏」の「文化財の保護及び利活用の推進」の一環として作成しました。

発行◆天理市教育委員会 文化財課

天理市埋蔵文化財センター

〒632-0017 奈良県天理市田部町320

Tel・Fax 0743-65-5720

印刷◆富光株式會社